



森のなかま

2020 年 5 月号

NO. 145 (継続 290 号)

NPO 法人かながわ森林インストラクターの会 <http://www.forest-kanagawa.jp> 発行人 久保 重明
〒243-0018 厚木市中町2丁目13番14号・サンシャインビル6階604号 TEL046-297-0301・Fax046-297-0302

新型コロナウイルスの影響で、8 月までの イベント・インストラクター派遣を見合わせます (事務局長)

県の基本方針に基づき、4 月 9 日（公財）かながわトラストみどり財団より、8 月末までの以下の県事業見直しの連絡があり、かながわ森林インストラクターの会も以下の通り活動を休止します。

1. ボランティア実践活動事業

- ・ 5/24 緑の祭典→秋以降に延期
- ・ 県民参加の森づくり 6/6、6/20、7/11、7/29、8/8、8/27→計 6 回の中止
- ・ 小・中・高校生の森林学習等の支援
原則 8 月末までの活動に係るインストラクターの派遣及び 9 月以降の活動に伴う下見等の中止

2. 森林インストラクター事業

- ・ 派遣調整については、原則 8 月末までの活動に係るインストラクターの派遣及び 9 月以降の活動に伴う下見等の中止
- ・ インストラクターブラッシュアップ研修は、9 月以降に 2 回実施
- ・ 森林インストラクター養成講座は、令和 2 年度は中止 →令和 3 年度再募集する

3. 森林づくり普及啓発事業

- ・ やどりき水源林案内人事業は 8 月末までの土日の案内を中止とし、その間のニュース配信も中止
- ・ 水源林のつどい 8/22→中止

4. 各部会、事業部の活動

- ・ 各部会は、8 月末まで活動中止
- ・ 事業部活動は個別対応とします。

9 月号まで 会報「森のなかま」を休刊とします (広報部)

上記の通り当会の活動が休止になるのに伴い、会報「森のなかま」は、6 月号から 9 月号までを休刊とします。10 月号から再開します。

<森林文化部会> 炭焼き研修会

日時：1 回目 2020 年 2 月 26 日(水) 27 日(木)希望参加者で火入れ) 9:00~15:00

2 回目 2020 年 3 月 15 日(日) 9:00~15:00

場所：二宮町一色 『湘南二宮・ふるさと炭焼き会』の活動フィールド

参加者：1 回目 17 名(火入れ 10 名) 2 回目 14 名(3 名の不参加除く)※講師込みの人数

講師：徳岡達郎さん 11 期 佐藤裕昭さん 11 期 & 湘南二宮ふるさと炭焼き会の面々

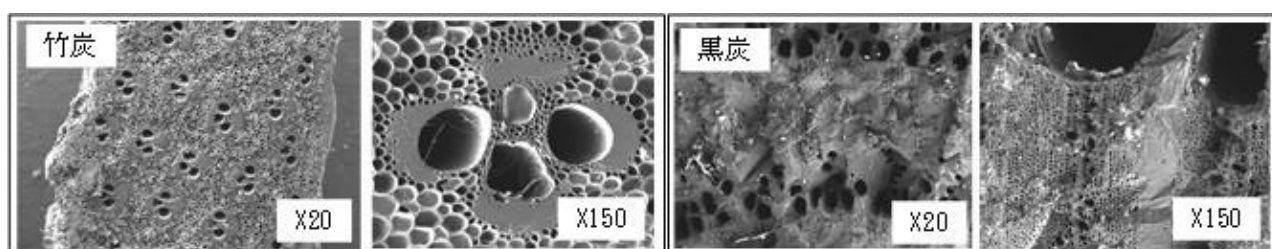
<記 写真 11 期 真貝 勝>

森林文化部会主催で炭焼き研修が 2 回に渡って実施された。1 回目(2 月 26 日)は窯入れと火入れ(火入れは自由参加)、2 回目(3 月 15 日)は窯出しである。近年炭焼きは、火の問題や匂いの問題等で実施できる場所が少なくなっているが、かつての農山村では普通に行われていた作業でもある。煮炊きが電気やガスに変わってしまい、木炭を利用する機会が減ったため炭の需要が少なくなったのが主要因である。

今回は、『湘南二宮ふるさと炭焼き会』にお願いし、研修会の実施に至った。講師を務めていただいたのは、同炭焼き会の主要メンバーでもある徳岡⑪さん、佐藤(裕昭)⑪さんのお二人で、炭焼き会の他のメンバーの方々にも色々のご指導いただいた。

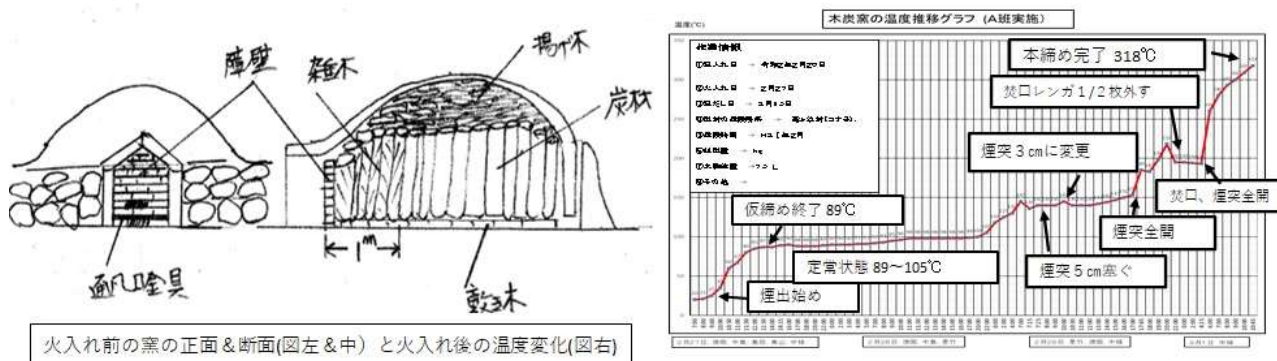


1 回目の具体的な内容は、油圧式薪割り機を用いた薪割り作業(広葉樹が原材料)と材の窯入れ、同時進行で花炭作りも実施された。窯入れ作業では、地面側に敷き木と呼ばれる竹材を置き、黒炭となる材を縦に隙間なく並べ、その上に揚げ木と呼ばれる細かく切った材で、空間を埋めた。窯の入り口近くは、火付けの後炭化が始まるまでの燃焼材が配置され、最後に耐火レンガを積み上げた。窯入れの作業終了後、昼食を済ませ、午後は座学である。炭焼き会の歴史、『木炭の作り方(二宮方式)』、窯の構造の説明、炭の種類、生産量、窯の温度上昇の軌跡など詳細に説明を受けた。森林文化部会からは、炭焼き会から提供を受けた炭の電子顕微鏡写真を紹介し、それぞれの炭の空洞の大きさの違い、竹炭(単子葉植物)と木炭(双子葉植物)の維管束の状態などについて説明を行った。



1 回目の 2 日目は自由参加とし、火付けから仮締めまでの作業を実施した。7 時に火付け(窯出口温度 20℃)、10 時半 37℃、14 時半 89℃と上昇した。火付け後は、炭焼き会の道具の紹介、仮締めに使う土の製作、次回の揚げ木の準備等を実施し、最後に通風口を残して仮締めに終了した。それぞれが、普段経験することがない活動だった。炭焼きの中で、炭化開始から本締めまでの温度管理が重要との説明で、数日を要するということもあり炭焼き会のメンバーでその後の作業は継続実施された。

左下の図は、座学で説明のあった窯入れが終わった時点での窯の正面および断面を示している。また、右下の図は今回の炭焼きの温度管理の状態を記録したグラフ。



さて、本締めから 15 日後、2 回目研修項目の窯出しが実施された。窯出しの前に竹酢液の成分として入るタールを除去する蒸留工程を見学後、窯出しを実施した。窯にぎっしり詰めた木材のうち、燃焼材と揚げ木、そして炭材の一部は燃え尽き、1/3 以上は空洞になっていた。窯から木炭を引き出して、ある程度の大きさにノコで切り計量・袋詰めして午前中の作業は終了した。マスクをしていたが、参加者の鼻の周りは炭で真っ黒の状態だった。今回窯入れした原材料が 2t 程度で、炭として取り出せたのは 304kg (約 15%) の計量結果とのことだった。午後は、『木・竹酢液の作り方生かし方』に関して、座学の講義があり終了となった。



2 回にわたる炭焼き研修を振り返って、炭を作る方法を知ることが研修会の目的と考えていたが、炭作り活動自体が「楽しい」「面白い」「難しい」というのが体験でき、有意義な研修となったのではないかと想像する。

最後に、大変良い機会を提供していただいた『湘南二宮ふるさと炭焼き会』のメンバーに本当に感謝したい。

※この研修は、コロナウィルス問題発生後の活動でしたが、風通しの良い屋外での手袋・マスク着用での活動で、自家用車で参加者が多く、体調に懸念がある方の参加を遠慮いただき、公共交通機関での参加者(5~6 名)も十分注意して参加していただくことで、実施しました。活動後、2 週間後に集合写真配布時に体調確認を行い、体調を崩しているという報告もありませんでした。

やどりき事業部会 2020年度

「やどりき水源林 森の案内人研修」

場所:やどりき水源林 日時:2020 年 3 月 22 日(日) 10 時~14 時

< 記 写真 9 期 水口俊則 >

やどりき水源林では、毎週土曜、日曜日の 10 時、13 時の 2 回、訪れていただいた方をかながわ森林インストラクターが「森の案内人」となり、水源林を案内させていただいています（なお冬季の 12 月～2 月は休止 また 2020 年 8 月末までは 1 ページに示す通り休止しています）。訪問者の方に、かながわの自然や水源林の大切さ、森林保全の重要性を実感していただくため、3 つの観察散策ルートが整備され、日によっては森林の中で癒やし体験、水生土壌生物の観察も行っています。また、H19～H23 年度の「成長の森」があり、お子様の健やかな成長を願って植樹された苗の成長を確認に来られる方もご案内しています。

そこで、訪問者の方が安全に楽しく満足していただけるように、3 月 22 日に毎年恒例の「森の案内人」の研修を実施しました。



広場 崩壊箇所での安全エリア確認



林道コース 落石箇所の注意確認

やどりき水源林には、昨年 10 月に関東地区に大被害をもたらした台風 19 号の大きな爪痕が残っています。イベント会場となる広場は一部流出し、林道コースは径路の途中が崩壊・落石で新たな迂回路を通る必要があります。

2020 年度は森の案内人 65 名の内、新しく 16 期生 11 名が案内人に加わったこともあり、すべての散策ルートを回り、注意箇所にはやどりき事業部役員メンバーが立って、どう安全配慮すべきかを確認し合いました。

また、案内人が管理棟に詰めてからの準備、案内時の装備、緊急時の対応、日誌記録と一連の手順についても確認し合いました。



管理棟内の備品手順の把握

※研修は新型コロナウイルス感染予防対策として、全員マスク着用、小グループにわかれ時間差で回るなど工夫し対応しました。



沢エリアでの危険要因の洗い出し



成長の森 案内ルート確認



ルート等確認後、注意ポイントと安全対策についてメンバー間で共有化

☆是非「やどりき水源林」にお越しください！ 9 月以降森の案内人一同 準備万端でお待ちしております。

16期生からの寄稿

新しくメンバーとして加わった16期生の方に寄稿をお願いしました。

広報のお手伝いをいただいている、小林 照夫さん 武田 昭典さん 中澤 良夫さん の3名からです。

森林インストラクターを目指すこと

16期 小林 照夫

私が森林ボランティア活動を始めて16年になるが、月2回以上の活動を休みなく続けた現場体験を通じて日本林業の実態を肌で感じたことが、自分の本能を動かしたのではないかと感じている。35年もの間全く畑違いの金融の世界で経済の事しか頭になかった自分が、長年無駄な時間を浪費してきたと感じるようになり、本格的に林業を学びたく、全国の「森林塾」などを廻った。

しかし年齢的に受入の窓口がなく落胆していた。実は8年程前、所属する森林ボランティア団体にJFIK（全国森林インストラクター神奈川）支部長の内野氏や数人のJFIKの会員の所属者が居たこともあり、会員として何度かJFIK活動に参加させて頂いたが、私としては満足できるものではなかった。“趣味では世界は変えられない”例えば釣りの太公望が日本の漁業を変えることができない様に、インストラクターが日本の林業を変えることはできないということだ。そんな折、所属の森林ボランティア団体にかながわインストラクター15期の先輩が入会され、講座受講の誘いを受け、「県民参加の森林づくり」活動への参加や県有林整備事業・企業林整備事業などの話を聞き、かながわ森林インストラクターの実行性と目的を感じる事ができたので、かながわインストラクター講座への受講をするに至った。

私の思う林業の理想は、日本林業がドイツ林業に学び、林業収入が日本のGDPに貢献できる社会環境づくりにある。森林インストラクターを“森林士”たる国家資格に昇格させ日本国土の70%に及ぶ森林の整備と材の活用で“プラスチック”に替わる時代産業の創生を国家を上げて行う。子供たちが人類の2,000倍の歴史をもつ森林の大切さを自然の中から学び育てることをサポートすること。スギ、ヒノキ林を成長の早い広葉樹などに植林替えし混交林を育成し各目標林班で経済性を高めると同時に自然災害に耐える造成を目指す、など国家の舵を切る時代が来た。

とりわけ私にできることは、幼稚園から次世代を担う子供たちに林業のもつ意味と大切さを教えることから始めることだと思っている。所属する団体では中高大学生を中心とする「若者の森」造りを組織化しているが、その一環で地元の小中学校にも森林体験授業を行う機会も増えて来ている。

森林インストラクター会では、NW部会の学校授業への参加等積極的に加わっていきたいと考えている。森林整備技術を丁寧に正しく学び、森林作業の安全性を伝えることができる森林インストラクターの育成を、神奈川県より全国に発信し、思いの実現に貢献したいと思います。



2019.9.28～29 秦野市野外活動
センターでの合宿風景



16 期 武田 昭典

1 年半の受講期間を終えて、晴れてようやく「神奈川県森林インストラクター」として認定を受けることができました。

この「神奈川県森林インストラクター」制度の強み（魅力？）は、資格を認定するにあたって、1 年半の養成講座があり、しかもそれは座学だけでなく実習がセットされているということだと思います。知識の習得だけでなく、体験、経験をとおして森林について学べるということにあると思います。

「間伐」という言葉は、森林に関心のある人たちにはよく耳にする言葉になってきましたが、実際に「間伐」をしたことのある人は少ないでしょうし、「植物の名前を覚えるには、標本をつくり観察することが大事」といわれても、実際に標本はどのように作るものかわからない。「崩壊斜面の整備には筋工の設置が有効」といわれても、筋工なんて作ったこともない、等々。

そういった森林整備や自然観察諸々のことについて、しなければいけないこと、してはいけないことを、その場に立って、実際に道具を使って、作業をとおして身につけていく。実際、知っているようでよくわからない、知っているつもりで実際を知らないということに改めて気付かされるプログラムでした。そのうえ道具も、材料も用意してもらって、教えてもらえる（しかも無料で）なんて、こんなウマイ話（?!）は今の世の中そうそうあることじゃない、と。

ところで、「神奈川県森林インストラクター」って何するの？と改めて問われたらなんと答えよう。「森林・林業についての知識・理解の普及と、県民参加の森林づくり活動における指導・支援する人」、ということになるのだけれど、認定ホヤホヤの身では、指導するなどおそれ多く、知識も技術もはなはだ心もとない。それでもいつかは胸を張って「森林インストラクター」と名乗れるよう、お役に立てるよう、「尽きない興味と好奇心」を持ってやってみよう、とそんなことを考えている新米インストラクターの一人です。

16 期 中澤 良夫

私は森林との関わりは、実は 20 年に及びます。と記しますといかにもベテランと思われるかも知れませんが、ベテランは年齢のみで、技術的にはそうではありません。職場の先輩の影響を受けて始めた、スキー・スノートレッキング・登山・山荘ライフ、中でも森林との付き合いの楽しさ爽快さは、人生を変えたと言っても過言ではありません。そののめり込み様は、分収林（長野県下諏訪町東股、御柱祭の神木を伐りだす林班の近く）を 1ha 保有するまでに至り、下刈・除伐・枝打ち・間伐作業を四季折々に楽しんできました。しかし持ち合わせる技術は、素人同士の見様見真似の我流そのものです。しっかりとした技術・ノウハウを習得したいとの思いから、インストラクター講座を受講した次第です。

卒業し認定を戴きましたので、技術はこれより森林部会での研修と活動にて修得させていただきたいと思っています。

インストラクターの会入会后「森のなかま」に触れ、また個々の活動に参加して感じましたのは、キチンとした組織体系と各部門での活動が極めて真摯に取り組まれていることです。「森のなかま」を核とした情報網（ML など）は、活動を活性化させ、会員の意欲を掻き立てる役割を十分に発揮していると思われます。私は既に喜寿を迎えるに至りましたので、遅すぎるエントリーを挽回すべく、短期に密度濃く多くの活動を通じて、森林づくりにお役立ち出来ればと念じております。足でまといとは思いますが、どうぞよろしくお願い致します。

活動短 信

今回の掲載は R2 年 2 月 18 日分です。
寄稿頂いた中には、紙面都合や寄稿タイミングで次号以降の掲載になるものもあります。

5 月(五月)(旧暦 4 月卯月)の二十四節気

立夏 5/5 頃

夏の始まり 立秋までが夏です。よい季節ですが、今年は自粛です。

小満 5/21 頃

草木が成長して茂るころ。麦の穂が出て少し満足。田んぼでは田植えの準備

活動短信への投稿概略フォーマットと略語の説明
ページレイアウトは気にせずベタ書きで結構です。
(できれば Word、メール直筆でも OK。Excel はできるだけ避けてください。改行等の処理に手間を要しますので写真もあれば 1 枚添付ください。)

◆ 活動団体・活動名 等

日 日付(できれば時間と天気も)

場 場所 (例: 相模原市緑区 長竹承継分収林)

参 参加者 人数

県 神奈川県 環境農政局 緑政部

水源環境保全課 水源の森林推進グループ

財(公財)かながわトラストみどり財団、看 看護師

スタッフ 例 小田原市森林組合 XX 様

例 川崎市公園緑地協会・XX 様

イ インストラクター (○数字: 期) 研: 研修枠

以下の本文を概ね 400 字前後を目安として執筆ください
リーダーは責任を持って執筆者の選択と執筆後のチェックをお願いします。(執筆者名もお忘れなく!!)

活動終了後の速やかな投稿をお願いいたします。

森のめぐみの掲載は、
今月号はありません。
次掲載は 10 月号の
予定です。

森のめぐみ シリーズ

◆ 神奈川県森林組合連合会 農林中央金庫による CSR 活動に伴う 茅ヶ崎市立西浜小学校児童に対する木育活動

日 令和 2 年 2 月 18 日 9:00~11:00 晴れ

場 茅ヶ崎市立西浜小学校

参 4 年生児童 117 名、教諭 5 名

スタッフ 神奈川県森林組合: 小川参事、川口課長代理

農林中央金庫: 2 名

茅ヶ崎市教育委員会: 2 名

取材 日刊木材新聞: 1 名

タウンニュース: 1 名

イ L 柏倉④ 森本⑤ 齋藤⑥ 渡部⑦ 小沢⑧

村井⑨ 松本⑩ 松石⑬ 石垣⑮ 堀口⑯

茅ヶ崎海岸から伊豆大島がはっきりと見える
快晴の中、海岸沿いにある茅ヶ崎西浜小学校で
4 年生に対する木育授業として、地球温暖化を

防ぐための森林の役割の講話と木材利用の一つ
としてコースター作りを実施した。

授業は 2 時限目のみ (45 分間) と短い時間の中
での活動となった。同校には森林組合より県産
材を活用した机 40 台が寄贈されており、音楽室
で使用している旨学校長より説明があった。

会場である体育館では児童が 8 班に分かれた
各班にインストラクターを 1 名ずつ配置し車座
になり講話とコースター作りを行った。

講話では多くの児童が真剣に聴き、発言する姿
が印象的であ
った。

コースター
作りでは部品
に細かい切れ
目が入ってい
るため組立途
中で割れたり
欠けたりする
場面も多くあ
ったが全ての
児童が無事完
成させることができた。また、組立が上手に進
まない児童にはクラスの他の児童が進んで手を
貸すなど協力する姿が見られ大きく遅れる児童
もなく終了できた。

当初組立時間は 40 分程度と森林組合より説明
を受けていた
が、事前に児
童の年齢に合
った組立手順
に見直しを行
ったため、授
業の時間内で
完成させる事
ができた。

組立後に余
剰時間があつた班では各インストラクターが砂
防林や樹木の寿命、年輪について等児童の興味
を探りながら指導を行う場面があり先輩インス
トラクターの臨機応変な対応と知見の広さ深さ
を感じた。

児童たちには今回の講話や手作り体験を通し
て森林に興味を持ってくれる事を期待したい。

(記 堀口 俊司⑯)



茅ヶ崎西浜小学校 4 年生
インストラクターによる地球温暖化についての講話風景



手作りコースター完成品

かながわしずくちゃん Facebook は下記 URL で見ることができます。

かながわの水環境の
保全・再生をめざして

<https://www.facebook.com/kanagawa.sizuku>

やどりき水源林ミニガイド

「森の案内人」情報

9 月から森の案内人を再開する予定です。新しいメンバーも増え案内人も張り切ってお待ちしています。

- 実施時間:毎週土曜・日曜・AM10 時・PM1 時, 1~2 時間程度
- 集 合:水源林入口ゲート前
- 内 容:森林インストラクターが自然観察にご案内します。森林のしくみ手入れなどについて説明致します。参加自由、参加費無料
- *10 人以上の団体は事前に下記までご連絡ください。

- 問合せ:
(公財)かながわトラストみどり財団
TEL: 045-412-2255
FAX: 045-412-2300
- ホームページ: <http://www.ktm.or.jp>
E-mail: midori@ktm.or.jp

かながわ森林インストラクターの会
k-inst0981@friend.ocn.ne.jp

森のなかまは過去号もご覧になれます。
(ホームページ) <http://www.forest-kanagawa.jp/3kiroku.html#kiroku01>
(HP 担当: 井出恒夫)

◇ 森のなかま原稿募集 ◇

会員読者の皆様から広く募集しています。
<広報全般についてのお問い合わせ>

黒川 敏史
Mail: kurokawa.family@aa.cyberhome.ne.jp
Tel: 080-5477-2206

<電子配信会員向け担当> 笠原 かずみ
Mail: happy_kumakuma711@icloud.com

<電子配信企業等パートナー様向け担当>
柳澤 千恵美
Mail: cherill@ek9.so-net.ne.jp

<メール・手書き原稿送り先>

【本誌】黒川 敏史
Fax: 0467-46-8650
電話連絡先: 080-5477-2206
Mail: kurokawa.family@aa.cyberhome.ne.jp

【別冊】阿藤 寿孝
Tel: 045-433-4413
Mail: hisa-ato2@22.netyou.jp

原稿は随時受け付けています。

編集後記

★この時期を乗り越えるため、今できることを楽しんでいます。接触を避け、仲間とは LINE で連絡を取り合っています。最近フラ仲間と LINE で共同レッスンしました。スマートフォンでは、いろいろなことができるんですね。(笠原)

★この歳になって初めての災害経験。一瞬だけでなくじわじわと広がる疫病という災害。

飢餓、疫病、戦争は過去のものと認識してたのに。

人類の歴史は確かに進歩しているが、まだまだ道半ば! (吉田)

★コロナウィルス騒動で外出自粛してゐるなか、毎日窓から眺める日光、群馬の山々、少し前まで白く見えてたのに黒くうつすらとしか見えない日が多くなった今日この頃です!! (阿藤)

★新型コロナ憎しです。1980 年の映画『復活の日(英語タイトル VIRUS)』を思い出しました。角川映画、小松左京原作、キャスト演草刈正雄、オリビアハッセー 主題唄ジャニス・スエーデンでした。スペイン風邪似もできました。怖ろしいですね。

皆さん中途半端な知識で事を甘く見過ぎではありませんか。森林も一緒です。木を切り倒す事や、植樹だけで快感のみを求めていますか。(松本)

★近所で竹林整備を手伝いに行き、欲求不満の八つ当たりで、タケをバシバシ伐りました。あ〜ス〜ッとした! 皮肉なことに、美味しそうなタケノコが、例年より多く採れます。(竹内)

★ついに活動休止、会報休刊の事態となっていました。特効薬、ワクチン開発に時間がかかりすぎですね。

自然界はいつも通りで、田んぼではシュレーゲルアオガエルがコロコロと鳴いています。(黒川)

年間通読のお申し込み

「森のなかま」年間通読をご希望の方は、郵便局備付けの郵便振替を利用してお申し込み下さい。
郵便振替口座 00230-0-2454 かながわ森林インストラクターの会宛まで2000円をお振込み下さい。振替用紙には、必ず、住所、氏名を明記して下さい。振替用紙到着の翌月号から12回/1年間お届け致します。

編集人: 黒川 敏史
広報部: 吉田郁夫 松本保 笠原かずみ 加藤優美
阿藤寿孝 竹内明彦 柳澤千恵美
支援: 大原正志 江頭淑子 小林照夫 武田昭典 中澤良夫
16 期生を迎えて、支援メンバーが入れ替わりました。

 **丹沢の自然再生に取り組む 丹沢大山自然再生委員会の**
ホームページをご覧ください。 <http://www.tanzawasaisei.jp/>



かながわ森林インストラクターの会は『緑の募金』の支援団体としても取り組んでいます。全国で5番目/NPO法人で初めて委嘱されています。